

(1)

 $a=1$ のとき、関数 $f(x)$ は

$$f(x) = \frac{\log(1-x)}{1-x}$$

であり、真数条件と分母の条件より、 $f(x)$ の定義域は

$$1-x > 0 \text{ かつ } x \neq 1 \Leftrightarrow x < 1$$

となる。

(i)

関数 $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ および 2 次導関数 $f''(x)$ は

$$\begin{aligned} f'(x) &= \left\{ (1-x)^{-1} \cdot \log(1-x) \right\}' \\ &= -(1-x)^{-2} (1-x)' \cdot \log(1-x) + (1-x)^{-1} \cdot (1-x)^{-1} (1-x)' \\ &= \frac{\log(1-x) - 1}{(1-x)^2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} f''(x) &= \left\{ (1-x)^{-2} \cdot (\log(1-x) - 1) \right\}' \\ &= -2(1-x)^{-3} (1-x)' \cdot (\log(1-x) - 1) + (1-x)^{-2} \cdot (1-x)^{-1} (1-x)' \\ &= \frac{2\log(1-x) - 3}{(1-x)^3} \end{aligned}$$

となり、方程式 $f'(x)=0$ 、 $f''(x)=0$ を解くと

$$f'(x)=0 \Leftrightarrow \log(1-x)=1$$

$$\therefore x=1-e$$

$$f''(x)=0 \Leftrightarrow \log(1-x)=\frac{3}{2}$$

$$\therefore x=1-e\sqrt{e}$$

となる。よって、 $f(x)$ ($x < 1$) の増減凹凸表は以下のようになる。

x	...	$1-e\sqrt{e}$...	$1-e$...	(1)
$f'(x)$	+	+	+	0	-	
$f''(x)$	+	0	-	-	-	
$f(x)$	↗	変曲点	↖	極大	↘	

ここで、極値をとる点と変曲点の座標は、それぞれ

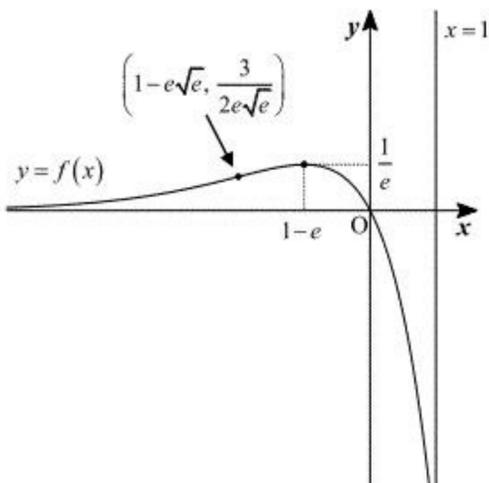
$$\text{極大値をとる点: } (1-e, f(1-e)) = \left(1-e, \frac{1}{e}\right)$$

$$\text{変曲点: } (1-e\sqrt{e}, f(1-e\sqrt{e})) = \left(1-e\sqrt{e}, \frac{3}{2e\sqrt{e}}\right)$$

であり、 $x \rightarrow -\infty$ 、 $x \rightarrow 1-0$ の極限は

$$\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = 0 \left(\because \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x} = 0 \right)$$

$$\lim_{x \rightarrow 1-0} f(x) = \lim_{t \rightarrow 0} \frac{\log t}{t} = -\infty \quad (1-x=t)$$

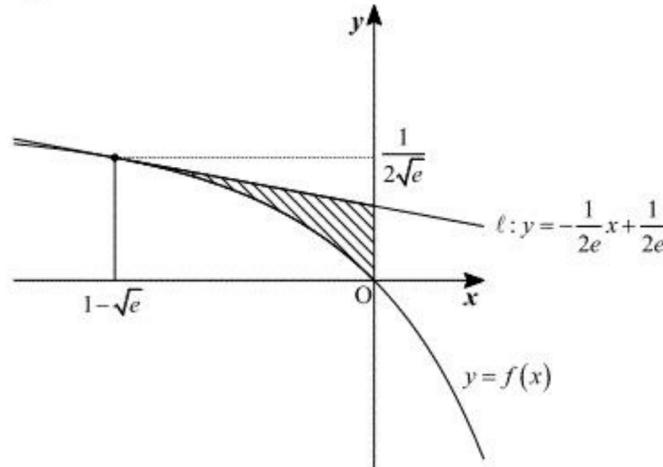
である。したがって、関数 $y=f(x)$ のグラフの概形は以下のようになる。(答) 極大値: $\frac{1}{e}$ ($x=1-e$), 変曲点: $\left(1-e\sqrt{e}, \frac{3}{2e\sqrt{e}}\right)$, グラフの概形: 前図

(ii)

曲線 $y=f(x)$ 上の点 $(1-\sqrt{e}, f(1-\sqrt{e}))$ における接線を ℓ とすると、その方程式は

$$y = f'(1-\sqrt{e})\{x - (1-\sqrt{e})\} + f(1-\sqrt{e}) \Leftrightarrow y = -\frac{1}{2e}\{x - (1-\sqrt{e})\} + \frac{1}{2\sqrt{e}}$$

$$\therefore y = -\frac{1}{2e}x + \frac{1}{2e}$$

となるから、曲線 $y=f(x)$ と接線 ℓ 、および y 軸で囲まれた部分は以下の図のようになる。

したがって、求める面積は

$$\begin{aligned} \int_{1-\sqrt{e}}^0 \left\{ -\frac{1}{2e}x + \frac{1}{2e} - \frac{\log(1-x)}{1-x} \right\} dx &= \int_{1-\sqrt{e}}^0 \left\{ -\frac{1}{2e}(x-1) + \log(1-x)(\log(1-x))' \right\} dx \\ &= \left[-\frac{1}{4e}(x-1)^2 + \frac{1}{2} \{ \log(1-x) \}^2 \right]_{1-\sqrt{e}}^0 \\ &= \frac{1}{4e}(e-1) - \frac{1}{8} \\ &= \frac{1}{8} - \frac{1}{4e} \end{aligned}$$

となる。

(答) $\frac{1}{8} - \frac{1}{4e}$

(2)

 $a=0$ のとき、関数 $f(x)$ は

$$f(x) = -\frac{\log(1-x)}{x}$$

であり、真数条件と分母の条件より、 $f(x)$ の定義域は

$$1-x > 0 \text{ かつ } x \neq 0 \Leftrightarrow x < 0, 0 < x < 1$$

となる。関数 $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ は

$$\begin{aligned} f'(x) &= \left\{ -x^{-1} \cdot \log(1-x) \right\}' \\ &= x^{-2} \cdot \log(1-x) - x^{-1} \cdot (1-x)^{-1} (1-x)' \\ &= \frac{(1-x)\log(1-x) + x}{x^2(1-x)} \end{aligned}$$

となり、ここで、関数 $g(x)$ を $g(x) = (1-x)\log(1-x) + x$ とおくと、導関数 $g'(x)$ は

$$\begin{aligned} g'(x) &= (1-x)\{\log(1-x)\}' + (1-x)' \log(1-x) + 1 \\ &= (1-x) \cdot \left(-\frac{1}{1-x} \right) - \log(1-x) + 1 \\ &= -\log(1-x) \end{aligned}$$

となる。よって、 $g(0)=0$ に注意すると、区間 $0 < x < 1$ における関数 $g(x)$ の増減表は以下のようになる。

x	(0)	...	(1)
$g'(x)$		+	
$g(x)$	(0)	↗	

したがって、 $0 < x < 1$ において $g(x) > 0$ である。ここで、導関数 $f'(x)$ は関数 $g(x)$ を用いて

$$f'(x) = \frac{g(x)}{x^2(1-x)}$$

と表せるから、 $0 < x < 1$ において $f'(x) > 0$ であることがわかる。ゆえに、 $f(x)$ が区間 $0 < x < 1$ で単調に増加することが示された。

(証明終)

(1)

頂点 A, B からそれぞれの対辺またはその延長上に下ろした垂線の交点を H' とすると,
 $\overline{AH'} \cdot \overline{BC} = 0, \overline{BH'} \cdot \overline{AC} = 0$ である。以下, $\overline{CH'} \cdot \overline{AB} = 0$ を示すことを考える。まず,

$$\overline{CH'} \cdot \overline{AB} = (\overline{OH'} - \vec{c}) \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = \overline{OH'} \cdot \vec{b} - \overline{OH'} \cdot \vec{a} - \vec{c} \cdot \vec{b} + \vec{c} \cdot \vec{a} \quad \dots \textcircled{1}$$

である。ここで, $\overline{AH'} \cdot \overline{BC} = 0, \overline{BH'} \cdot \overline{AC} = 0$ より

$$\begin{aligned} \begin{cases} \overline{AH'} \cdot \overline{BC} = 0 \\ \overline{BH'} \cdot \overline{AC} = 0 \end{cases} &\Leftrightarrow \begin{cases} (\overline{OH'} - \vec{a}) \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = 0 \\ (\overline{OH'} - \vec{b}) \cdot (\vec{c} - \vec{a}) = 0 \end{cases} \\ &\Leftrightarrow \begin{cases} \overline{OH'} \cdot \vec{b} = \overline{OH'} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{c} + \vec{a} \cdot \vec{b} \\ \overline{OH'} \cdot \vec{a} = \overline{OH'} \cdot \vec{c} - \vec{b} \cdot \vec{c} + \vec{b} \cdot \vec{a} \end{cases} \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

であるから, ②を①に代入することで

$$\begin{aligned} \overline{CH'} \cdot \overline{AB} &= \overline{OH'} \cdot \vec{b} - \overline{OH'} \cdot \vec{a} - \vec{c} \cdot \vec{b} + \vec{c} \cdot \vec{a} \\ &= (\overline{OH'} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{c} + \vec{a} \cdot \vec{b}) - (\overline{OH'} \cdot \vec{c} - \vec{b} \cdot \vec{c} + \vec{b} \cdot \vec{a}) - \vec{c} \cdot \vec{b} + \vec{c} \cdot \vec{a} \\ &= (\overline{OH'} \cdot \vec{c} - \overline{OH'} \cdot \vec{c}) + (-\vec{a} \cdot \vec{c} + \vec{c} \cdot \vec{a}) + (\vec{a} \cdot \vec{b} - \vec{b} \cdot \vec{a}) + (\vec{b} \cdot \vec{c} - \vec{c} \cdot \vec{b}) \\ &= 0 \end{aligned}$$

$$\therefore CK \perp AB \text{ または } \overline{CH'} = \vec{0} \quad (\because \overline{AB} \neq \vec{0})$$

となることがわかる。したがって, 点 H' は頂点 C から直線 AB に下ろした垂線上に存在する。ゆえに, $H' = H$ であり, 頂点 A, B, C からそれぞれの対辺またはその延長上に下ろした垂線の交点は1点で交わることが示された。

(証明終)

(2)

点 G は $\triangle ABC$ の重心であることから, $\overline{OG} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$ となるため, 内積 $\overline{OG} \cdot \overline{AB}$ は

$$\overline{OG} \cdot \overline{AB} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = \frac{1}{3} \{ (\vec{b} + \vec{a}) + \vec{c} \} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = \frac{1}{3} (|\vec{b}|^2 - |\vec{a}|^2 + \vec{c} \cdot \vec{b} - \vec{c} \cdot \vec{a})$$

となる。ここで, 点 O は $\triangle ABC$ の外心であることから, $|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}|$ である。したがって,

$$\overline{OG} \cdot \overline{AB} = \frac{\vec{c} \cdot \vec{b} - \vec{c} \cdot \vec{a}}{3}$$

と表せる。

$$\text{(答)} \quad \overline{OG} \cdot \overline{AB} = \frac{\vec{c} \cdot \vec{b} - \vec{c} \cdot \vec{a}}{3}$$

(3)

点 H は $\triangle ABC$ の垂心であることから, 内積 $\overline{OH} \cdot \overline{AB}$ は

$$\begin{aligned} \overline{OH} \cdot \overline{AB} &= (\overline{OC} + \overline{CH}) \cdot \overline{AB} \\ &= \overline{OC} \cdot \overline{AB} + \overline{CH} \cdot \overline{AB} \\ &= \vec{c} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) \quad (\because \overline{CH} \cdot \overline{AB} = 0) \\ &= \vec{c} \cdot \vec{b} - \vec{c} \cdot \vec{a} \end{aligned}$$

と表せる。

$$\text{(答)} \quad \overline{OH} \cdot \overline{AB} = \vec{c} \cdot \vec{b} - \vec{c} \cdot \vec{a}$$

(4)

(2), (3)の結果より, $\overline{OG} \cdot \overline{AB} = \frac{1}{3} \overline{OH} \cdot \overline{AB}$ となるから, これを変形すると

$$\left(\overline{OG} - \frac{1}{3} \overline{OH} \right) \cdot \overline{AB} = 0 \quad \dots \textcircled{3}$$

となる。同様に, $\left(\overline{OG} - \frac{1}{3} \overline{OH} \right) \cdot \overline{BC} = 0$ の成立を示すことを考える。まず, (2)と同様にして

$$\overline{OG} \cdot \overline{BC} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = \frac{1}{3} (|\vec{c}|^2 - |\vec{b}|^2 + \vec{a} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}) = \frac{\vec{a} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}}{3} \quad (\because |\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}|)$$

であり, (3)と同様にして

$$\begin{aligned} \overline{OH} \cdot \overline{BC} &= (\overline{OA} + \overline{AH}) \cdot \overline{BC} \\ &= \overline{OA} \cdot \overline{BC} + \overline{AH} \cdot \overline{BC} \\ &= \vec{a} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) \quad (\because \overline{AH} \cdot \overline{BC} = 0) \\ &= \vec{a} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b} \end{aligned}$$

となる。したがって, $\overline{OG} \cdot \overline{BC} = \frac{1}{3} \overline{OH} \cdot \overline{BC}$ となるから, これを変形すると

$$\left(\overline{OG} - \frac{1}{3} \overline{OH} \right) \cdot \overline{BC} = 0 \quad \dots \textcircled{4}$$

となる。よって, ③, ④と問題文で与えられた内容より

$$\overline{OG} - \frac{1}{3} \overline{OH} = \vec{0} \Leftrightarrow \overline{OG} = \frac{1}{3} \overline{OH}$$

となるから, 3点 G, H, O は一直線上にあることが示された。

(証明終)

【解答】

(1)	ア	イ	ウ
	90	36	18
(2)	エ		
	48		
(3)	オ		
	08		

【解説】

(1)

1日目の担当の組合せは、10時から12時を担当する人を6人の中から2人選び、12時から14時を担当する人を残りの4人の中から2人選ぶ場合の数であるから、

$${}_6C_2 \cdot {}_4C_2 = 15 \cdot 6 = 90 \text{ (通り)}$$

である。

そのうち、A, Bが午後を担当する組合せは、10時から12時を担当する人をA, B以外の4人の中から2人選び、12時から14時を担当する人を残りの4人の中から2人選ぶ場合の数であるから、

$${}_4C_2 \cdot {}_4C_2 = 6 \cdot 6 = 36 \text{ (通り)}$$

である。

A, B, Cの3人が午後を担当する組合せは、10時から12時を担当する人をA, B, C以外の3人の中から2人選び、12時から14時を担当する人を残りの4人の中から2人選ぶ場合の数であるから、

$${}_3C_2 \cdot {}_4C_2 = 3 \cdot 6 = 18 \text{ (通り)}$$

である。

(2)

6人を1日目に担当が同じであった2人の組(A, B), (C, D), (E, F)に分けて、誰も1日目の担当と同じ人と組まない組合せを考える。10時から12時を担当する人の選び方は、組分けした3組の中から2組を選び、さらにその2組でそれぞれ1人ずつ、その時間に担当する人を選ぶ場合の数であるから、

$${}_3C_2 \cdot 2^2 = 3 \cdot 4 = 12 \text{ (通り)}$$

である。12時から14時を担当する人の選び方は、残りの4人の中から2人を選ぶ場合の数から、12時から14時または14時から16時で1日目と同じ人と組む場合の数2通りを除いたものになるから、

$${}_4C_2 - 2 = 6 - 2 = 4 \text{ (通り)}$$

である。よって、誰も1日目の担当と同じ人と組まない組合せは、

$$12 \cdot 4 = 48 \text{ (通り)}$$

である。

(3)

10時から12時を担当する人の選び方は、(C, D), (E, F)の2組からそれぞれ1人ずつ選ぶ場合の数であるから、

$$2^2 = 4 \text{ (通り)}$$

である。12時から14時を担当する人は、(A, B)のどちらかと(E, F)のうち10時から12時を担当していない人であるから、その選び方は

$$2^1 = 2 \text{ (通り)}$$

である。14時から16時を担当する人は残りの2人に決まる。よって、誰も1日目と同じ人とは組まず、かつ誰も1日目と同じ時間帯を担当しない組合せは、

$$4 \cdot 2 = 8 \text{ (通り)}$$

である。

【解答】

(1)	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス				
	07	04	-01	03	05	03	-01	02				
(2)	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ネ	
	-01	02	11	12	02	-01	04	01	02	-03	04	

【解説】

(1)

A を平面 $z = \frac{1}{2}$ で切った断面を表す不等式は、

$$0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x^2 + \left(\frac{1}{2}\right)^2 \geq 1, y^2 + \left(\frac{1}{2}\right)^2 \geq 1$$

$$\Leftrightarrow 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x^2 \geq \frac{3}{4}, y^2 \geq \frac{3}{4}$$

$$\Leftrightarrow \frac{\sqrt{3}}{2} \leq x \leq 1, \frac{\sqrt{3}}{2} \leq y \leq 1$$

であるから、この断面は一辺の長さが $1 - \frac{\sqrt{3}}{2}$ の正方形である。よって、 A を平面 $z = \frac{1}{2}$ で切ったときの断面積は、

$$\left(1 - \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 = \frac{7}{4} - \sqrt{3}$$

となる。

同様に、 A を平面 $z = t$ ($0 \leq t \leq 1$) で切った断面を表す不等式は、

$$0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x^2 + t^2 \geq 1, y^2 + t^2 \geq 1$$

$$\Leftrightarrow 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x^2 \geq 1 - t^2, y^2 \geq 1 - t^2$$

$$\Leftrightarrow \sqrt{1 - t^2} \leq x \leq 1, \sqrt{1 - t^2} \leq y \leq 1$$

であるから、この断面は一辺の長さが $1 - \sqrt{1 - t^2}$ の正方形である。よって、 A を平面 $z = t$ で切ったときの断面積は、

$$\left(1 - \sqrt{1 - t^2}\right)^2 = 2 - t^2 - 2\sqrt{1 - t^2}$$

となる。これより、 A の体積は

$$\int_0^1 (2 - t^2 - 2\sqrt{1 - t^2}) dt = \left[2t - \frac{1}{3}t^3\right]_0^1 - 2 \int_0^1 \sqrt{1 - t^2} dt = \frac{5}{3} - 2 \int_0^1 \sqrt{1 - t^2} dt$$

と立式できる。ここで、 $t = \sin \theta$ と置換すると、 $\frac{dt}{d\theta} = \cos \theta$ であり、 t と θ の対応関係は

$$\begin{array}{c|c} t & 0 \rightarrow 1 \\ \theta & 0 \rightarrow \frac{\pi}{2} \end{array}$$

であるから、第2項の定積分の値は

$$\int_0^1 \sqrt{1 - t^2} dt = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sqrt{1 - \sin^2 \theta} \cdot \frac{dt}{d\theta} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^2 \theta d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 + \cos 2\theta}{2} d\theta = \left[\frac{1}{2}\theta + \frac{1}{4}\sin 2\theta\right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{4}$$

と求まる。以上より、 A の体積は

$$\frac{5}{3} - 2 \cdot \frac{\pi}{4} = \frac{5}{3} - \frac{\pi}{2}$$

であることがわかる。

(2)

B を平面 $z = t$ で切った断面を表す不等式は、

$$0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x^2 + t^2 \geq 1, y^2 + t^2 \geq 1, x^2 + y^2 \geq 1$$

$$\Leftrightarrow 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x^2 \geq 1 - t^2, y^2 \geq 1 - t^2, x^2 + y^2 \geq 1$$

$$\Leftrightarrow \sqrt{1 - t^2} \leq x \leq 1, \sqrt{1 - t^2} \leq y \leq 1, x^2 + y^2 \geq 1 \quad \dots \textcircled{1}$$

である。

まず、 B のうち、 z 座標が $0 \leq z \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$ の範囲にある部分の体積を求める。 $0 \leq t \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$ のとき

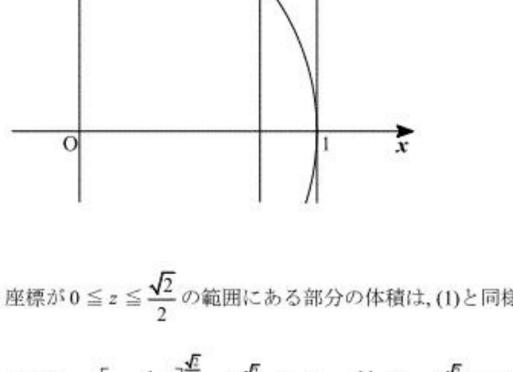
$$\begin{aligned} \sqrt{1 - t^2} \leq x \leq 1, \sqrt{1 - t^2} \leq y \leq 1 &\Rightarrow 2(1 - t^2) \leq x^2 + y^2 \\ &\Rightarrow x^2 + y^2 \geq 1 \quad (\because 2(1 - t^2) \geq 1) \end{aligned}$$

となるから、①は

$$\textcircled{1} \Leftrightarrow \sqrt{1 - t^2} \leq x \leq 1, \sqrt{1 - t^2} \leq y \leq 1$$

と同値変形できることがわかる。したがって、 B を平面 $z = t$ ($0 \leq t \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$) で切った断面は、

A と同様であり、一辺の長さが $1 - \sqrt{1 - t^2}$ の正方形である。



よって、 B のうち、 z 座標が $0 \leq z \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$ の範囲にある部分の体積は、(1)と同様に考えて

$$\int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} (2 - t^2 - 2\sqrt{1 - t^2}) dt = \left[2t - \frac{1}{3}t^3\right]_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} - 2 \int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} \sqrt{1 - t^2} dt = \frac{11}{12}\sqrt{2} - 2 \int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} \sqrt{1 - t^2} dt$$

と立式できる。ここで、 $t = \sin \theta$ と置換すると、 $\frac{dt}{d\theta} = \cos \theta$ であり、 t と θ の対応関係は

$$\begin{array}{c|c} t & 0 \rightarrow \frac{\sqrt{2}}{2} \\ \theta & 0 \rightarrow \frac{\pi}{4} \end{array}$$

であるから、第2項の定積分の値は

$$\int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} \sqrt{1 - t^2} dt = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 + \cos 2\theta}{2} d\theta = \left[\frac{1}{2}\theta + \frac{1}{4}\sin 2\theta\right]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{\pi}{8} + \frac{1}{4}$$

と求まる。以上より、求める体積は

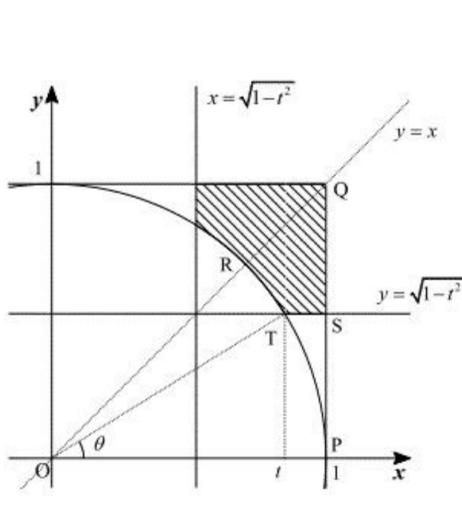
$$\frac{11}{12}\sqrt{2} - 2\left(\frac{\pi}{8} + \frac{1}{4}\right) = -\frac{1}{2} + \frac{11}{12}\sqrt{2} - \frac{\pi}{4} \quad \dots \textcircled{2}$$

であることがわかる。

次に、 B のうち、 z 座標が $\frac{\sqrt{2}}{2} \leq z \leq 1$ の範囲にある部分の体積を求める。 $\frac{\sqrt{2}}{2} \leq t \leq 1$ のとき

$$\sqrt{(\sqrt{1 - t^2})^2 + (\sqrt{1 - t^2})^2} = \sqrt{2(1 - t^2)} \leq 1 \quad (\because 2(1 - t^2) \leq 1)$$

となるから、①より、 B を平面 $z = t$ ($\frac{\sqrt{2}}{2} \leq t \leq 1$) で切った断面は、以下の図の斜線部のようになる。



上図の斜線部の面積を $S(t)$ とおく。また、上図のように点 P, Q, R, S, T をおき、線分 OT が x

軸正の向きとなす角を θ ($0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}$) とする。このとき、点 T の座標は $T(\cos \theta, \sin \theta)$ と表せるから

$$t = \cos \theta \quad \dots \textcircled{3}$$

が成り立つ。さて、斜線部は直線 $y = x$ に関して対称な図形であるから、 $S(t)$ は

$$\frac{1}{2}S(t) = (\text{三角形 OPQ の面積}) - (\text{台形 OPST の面積}) - (\text{扇形 OTR}) \quad \dots \textcircled{4}$$

を満たす。ここで、各図形の面積は、 θ を用いて

$$(\text{三角形 OPQ の面積}) = \frac{1}{2}$$

$$(\text{台形 OPST の面積}) = \frac{1}{2}\{(1 - t) + 1\}\sqrt{1 - t^2} = \frac{1}{2}(2 - \cos \theta)\sin \theta$$

$$(\text{扇形 OTR の面積}) = \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \left(\frac{\pi}{4} - \theta\right) = \frac{1}{2}\left(\frac{\pi}{4} - \theta\right)$$

と表せるから、④より、 $S(t)$ は θ を用いて

$$S(t) = 2\left\{\frac{1}{2} - \frac{1}{2}(2 - \cos \theta)\sin \theta - \frac{1}{2}\left(\frac{\pi}{4} - \theta\right)\right\} = 1 - (2 - \cos \theta)\sin \theta - \left(\frac{\pi}{4} - \theta\right)$$

と表せることがわかる。また、③より $\frac{dt}{d\theta} = -\sin \theta$ であり、 t と θ の対応関係は

$$\begin{array}{c|c} t & \frac{\sqrt{2}}{2} \rightarrow 1 \\ \theta & \frac{\pi}{4} \rightarrow 0 \end{array}$$

であるから、 B のうち、 z 座標が $\frac{\sqrt{2}}{2} \leq z \leq 1$ の範囲にある部分の体積は

$$\begin{aligned} \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^1 S(t) dt &= \int_{\frac{\pi}{4}}^0 S(t) \cdot \frac{dt}{d\theta} d\theta \\ &= \int_{\frac{\pi}{4}}^0 \left\{1 - (2 - \cos \theta)\sin \theta - \left(\frac{\pi}{4} - \theta\right)\right\} (-\sin \theta) d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left\{\left(1 - \frac{\pi}{4}\right)\sin \theta - 2\sin^2 \theta + \sin^2 \theta \cos \theta + \theta \sin \theta\right\} d\theta \\ &= \left(1 - \frac{\pi}{4}\right) \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin \theta d\theta - 2 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta d\theta + \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta \cos \theta d\theta + \int_0^{\frac{\pi}{4}} \theta \sin \theta d\theta \end{aligned}$$

と立式できる。さらに、各定積分の値は

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin \theta d\theta = [-\cos \theta]_0^{\frac{\pi}{4}} = 1 - \frac{\sqrt{2}}{2}$$

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 - \cos 2\theta}{2} d\theta = \left[\frac{\theta}{2} - \frac{\sin 2\theta}{4}\right]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{\pi}{8} - \frac{1}{4}$$

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta \cos \theta d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta (\sin \theta)' d\theta = \left[\frac{1}{3}\sin^3 \theta\right]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{\sqrt{2}}{12}$$

$$\int_0^{\frac{\pi}{4}} \theta \sin \theta d\theta = [\theta(-\cos \theta)]_0^{\frac{\pi}{4}} - \int_0^{\frac{\pi}{4}} (-\cos \theta) d\theta = -\frac{\sqrt{2}}{8}\pi + [\sin \theta]_0^{\frac{\pi}{4}} = -\frac{\sqrt{2}}{8}\pi + \frac{\sqrt{2}}{2}$$

となるから、求める体積は

$$\left(1 - \frac{\pi}{4}\right)\left(1 - \frac{\sqrt{2}}{2}\right) - 2\left(\frac{\pi}{8} - \frac{1}{4}\right) + \frac{\sqrt{2}}{12} + \left(-\frac{\sqrt{2}}{8}\pi + \frac{\sqrt{2}}{2}\right) = \frac{3}{2} + \frac{\sqrt{2}}{12} - \frac{\pi}{2} \quad \dots \textcircled{5}$$

であることがわかる。

以上②、⑤より、 B の体積は

$$\left(-\frac{1}{2} + \frac{11}{12}\sqrt{2} - \frac{\pi}{4}\right) + \left(\frac{3}{2} + \frac{\sqrt{2}}{12} - \frac{\pi}{2}\right) = 1 + \sqrt{2} - \frac{3}{4}\pi$$

と求まる。